

# つなぐテーブル

## コンセプト

家と家との間にある隙間。その隙間は法規の制限の中で生まれてきた。採光や防火、プライバシーのために必要な隙間である。私は住宅地の中に広がるその隙間を空地と考えた。住人は、その空地の境界線に振り向き、庭をつくり「自分だけのもの」として使ってきた。

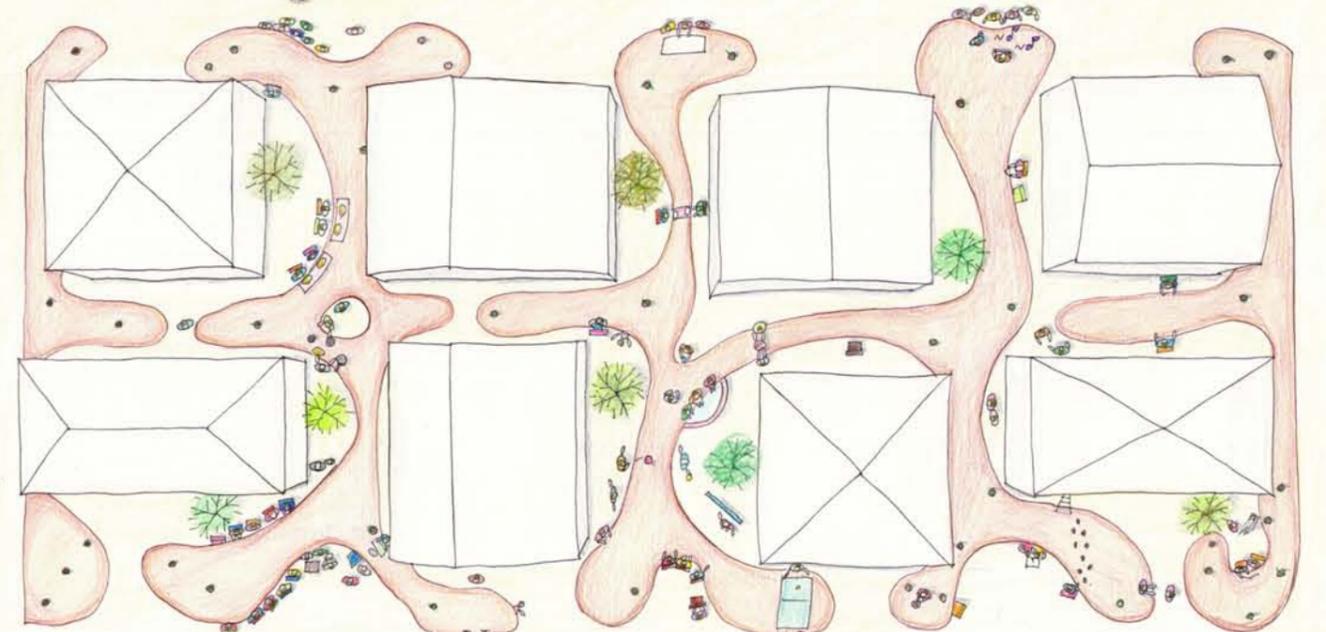
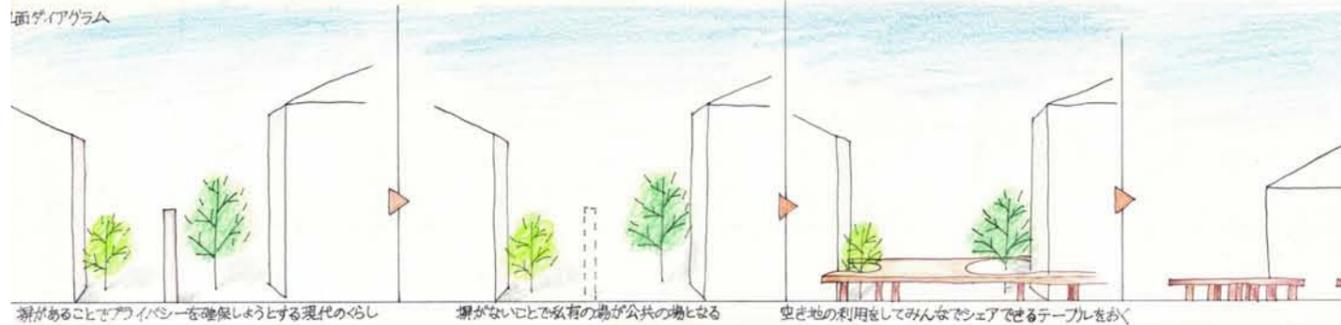
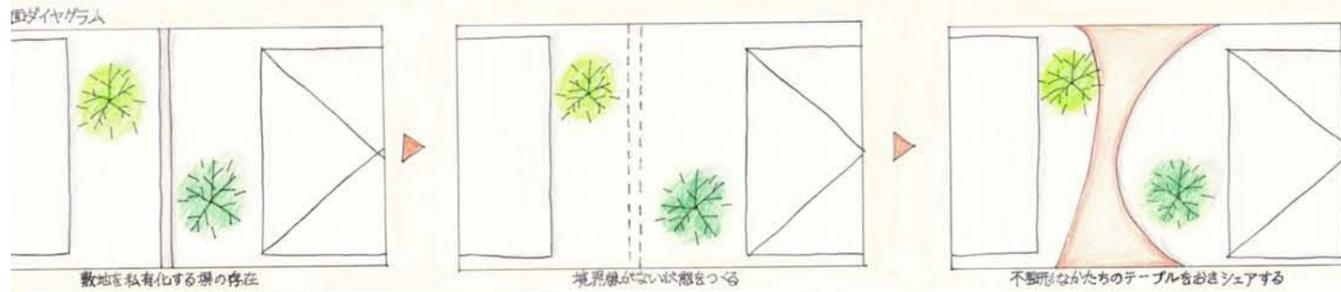
この「自分だけのもの」である空地をみんなでもシェアできるものにする。「自分だけのもの」が「みんなのもの」へと変わる。

さまざまなコミュニケーションが誘発され、日常生活がより豊かになると考えた。

家と家との境界線をなくし、そこに「大きなテーブル」を置いてみる。大きいことに加え、いろいろな場ができるようにカーブを加えてみる。他人たちはこのテーブルをつかって何をやるだろう。

家の窓を開いたらそこにはテーブルがあり、隣の家の人とお茶を飲んで、おしゃべりしながらお茶を飲んだり、友達みんな集めて、空の下で勉強会をしたり、ご近所さんみんなで一緒にランチやディナーをしたりと、道を通りかかった人と世間話ができるかもしれない。

「大きなテーブル」が「自分だけのもの」であった隙間を、かけがえのない「みんなのもの」にかえていく。



敷地同士の境界線は消え、みんながテーブルをシェアしていく。テーブルのまわりでさまざまなコミュニケーションがおこる

